

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年 7月 17日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	オークランド大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	✓ 3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

ニュージーランドを代表する総合大学。世界各地から多くの留学生を受け入れている。

留学した動機

私はイギリス研究コースに所属している。ニュージーランドという「周縁」の視点からイギリス帝国・コモンウェルス歴史について勉強したいと思ったこと、そしてジェンダー論を学びたかったことがアカデミックな動機である。女性史に興味があるため、世界で初めて国政での女性の選挙権が実現した国であるニュージーランドを選んだ。また、英語能力を高めたかったこと、国際色豊かな環境で視野を広げ、日本社会を客観的に見つめ直したかったことも、留学を決意した理由である。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	7月~	2017年	7月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2017年	学部3	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2018年	学部3	年生の	3月頃に	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			40	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			16	単位
	留学後の取得(予定)単位			36	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2019年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

学部3年の夏まで、東大である程度勉強してから留学に行きたいと考えたから。また、帰国してから、進路について考え準備する時間を十分に取れたかったから。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

留学先大学のホームページやメールで送られてくる案内を見ながら、入学手続きや履修登録を行った。また、システムの仕組みや具体的な履修登録の仕方などは、2年前にオークランド大学に留学していた先輩に教えていただいた。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

Student visaを申し込んだ。オンラインの場合は無料。必要な書類をマイページにアップロードする形式。申請してからビザがおろるまで2週間ほどかかったと記憶している。提出書類の中には、健康診断の結果や、過去6か月の銀行口座取引履歴(私は通帳の英訳を翻訳会社に依頼した)など、準備に時間のかかるものがある。さらに、ビザ申請後、追加で帰国便の航空券の提出を求められた。出発直前に焦らないように、早めにビザ申請の準備をしておくことをお勧めする。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

6か月以上の就学の場合は、移民局より指定された病院で健康診断を受ける。病院の数は限られているので、早めに予約しておくことと焦らずに済むと思う。常備薬は風邪薬などを持参した。予防接種は受けていない。また、事前に歯医者にも行った。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大に指示された付帯海学保険と、オークランド大学から義務付けられた保険の両方に加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

教養学部教務課に留学願を提出した。7月出発で最終週に出席できないことは分かっていたため、4月のそれぞれの授業の初回で先生に相談した。期末試験を免除していただくかわりに、レポートを提出した。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

東大の補助制度を利用し、1年生・2年生の時にIELTSを受験した。IELTS対策をほとんどしていなかったせいか、2年生の時のスコアはOverall 6(Reading 7, Listening 6, WritingとSpeaking は5.5)であり、高いとはいえないレベルであった。留学する前は、英語でプレゼンテーションを行ったりレポートを書いたりする授業を取っていた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

オークランドで手に入らない必需品はほとんどないと思うが、物価はおそらく日本と同じかそれ以上である。衣服、靴、眼鏡、サングラスなどは日本から持って行ったほうがよいと思う。国際学生証はニュージーランド国内では使わなかったが、オーストラリアの博物館・美術館で割引チケットを手に入れるのに役立った。携帯電話に関しては、私はsimフリーのスマホを持っていき、現地の携帯会社のプリペイドのsimを買った。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
GENDER 100 - Gender and the Culture of Everyday Life		●	HISTORY 210 - Health, Medicine and Society		●
HISTORY 102 - Sexual Histories: Western		●	HISTORY 252 - Snapshots: New Zealand Cultural History		●
HISTORY 104 - Pacific History: An Introduction		●	POLITICS 106 - Global Politics		●
HISTORY 107 - Rethinking New Zealand History		●			
GENDER 208 - Thinking Gender		●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

Historyの授業を中心にとり、Genderの授業も各学期に一つずつ取った。「女性史」というタイトルの授業はなかったものの、ほとんどの授業で女性やフェミニズム、ジェンダー、セクシュアリティに関するトピックを勉強する機会があったため、コース選択の結果には満足している。ほぼすべての授業は、大教室で行われるレクチャーとディスカッション形式のチュートリアルで構成されている。ほとんどのレクチャーは、スライドと録音がCANVAS(東大のITC-LMSに相当)にアップロードされるので、それを使って復習することができる。授業や週にもよるが、チュートリアル予習のReadingは週40~100ページほど。課題の量も授業により異なるが、平均して2回のエッセイ提出に加え、2時間の期末試験があった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

一学期あたり4科目履修した(それがスタンダードであると聞いた)。レクチャーが週2時間、チュートリアルが週1時間。2学期目にとったStage 2の授業のなかにはレクチャーが120分の科目もあったが、途中で休憩をはさむため、体力・集中力の面で問題はなかった。東大と比べて授業時間が少ないぶん、課題や予習に時間を割いた。レポートの締め切りが近いときは、1日12時間近く机に向かっていた。

④学習・研究面でのアドバイス

学生へのサポート体制は充実している。課題を進めるうえで困ったことがあれば、TutorやLecturerに相談するとよいと思う。私は基本的に授業の前後に質問・相談をし、場合によってはメールを送ったり、オフィスアワーを利用したりした。エッセイを提出する前に、構成について相談をしたり、添削をしてもらうことさえあった。Genderの授業のレポートで使うポスターの画像の探し方に困ったときには、Lecturerに紹介してもらい、図書館員に相談しに行った。どの先生もとても親切に対応してくださった。オークランド大学では、私のような英語が苦手な留学生に限らず、ローカルの学生にとっても、先生に相談することは珍しいことではない。また、ちょっとした疑問であれば、CANVASや授業のFacebookグループページに質問を投稿すると、他の生徒や先生が回答してくれる。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

レクチャーは、講師がスライドの内容に沿って授業を進めるため、理解しやすい。事前にリーディングやスライドを読んで予習を行い、わからない単語の意味を調べておくと、理解に役立つ。一方で、チュートリアルでは生徒が積極的に発言しディスカッションが進んでいくため、議論の内容を理解するのに苦勞した。特に最初は、ニュージーランド英語特有の発音やイントネーションに慣れていなかったため、生徒やTutorが話す内容を聞き取るのが難しかった。ましてや自分から発言することはなかなかできなかったが、2学期目になると4~5人の少人数グループの中であれば自分の意見を言えるようになった。スピーキング・リスニング能力は、友人や同じ寮の人と会話するなかで徐々に上達していったのだと思う。また、1学期目には、大学の英語学習センターが主催する、他の留学生やローカルの学生、スタッフと会話するイベントに参加していた。

生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学のウェブサイトを見て大学付属の寮に申し込み、希望通りになった。ツインシェアの部屋に住んでいた。プライベートスペースはなかったが、ルームメイトには困ったことがあった時に相談することができるし、仲を深めることができたので、選択には満足している。1学期目は3食付きの寮で、月10万円ほど。この寮が改築されることになったため、2学期目は自炊の別の寮(月7万円ほど)に引っ越した。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
冬は雨が多く寒い、オークランドでは雪は降らない。夏は日差しが当たれば暑い。キャンパス周辺の寮に住むのなら授業や買い物など普段の用事は徒歩で済むと思う。バス・電車・フェリーを使って遊びに行くための、キャンパス構内の建物で売っているAT HOP Card(学生割引あり)を早めに手に入れることをお勧めする。外食代は高い。クレジットカードはほとんどの店で使える。他の多くの学生と同じく、私はキャンパスの中にあるANZで銀行口座を開設し、日本から60万円ほど送金してもらった。自炊を始め買い物の機会が多くなった2学期目には、ANZのデビットカードを毎回使っていた。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安はとてもよく、危険を感じたことはない。ただ、夜に公園を通り抜けるのは避けたほうが良いと聞いた。幸いなことに大きく体調を崩すことはなく、病院には行かなかった。風邪気味の時は日本から持参した風邪薬を服用した。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
1学期目の生活費:家賃約10万円/月 2学期目の生活費:家賃約7万円+その他食費・交際費約3~4万円
・留学に要した費用総額とその内訳
おそらく合計200万円ほど。内訳:家賃・食費・交際費・通信費などを含む生活費約132万円、航空券代往復約16万円、教科書代約2万円、旅行代約50万円
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東大を通して、Fung scholarshipより月7万円をいただいた。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
留学生交流サークルに所属し、キャンパス内外での交流イベントに参加した。特に、郊外の島への日帰り旅行やラグビー観戦イベントなどが楽しかった。金曜日や週末は友人と食事をするのもあったし、一人で博物館や美術館に行ったり公園を散歩したりすることもあった。友人に誘われ、金曜日は大学のジムでヨガのクラスに参加していた。Mid semester break 中はニュージーランド国内を旅行した。長期休暇中は短期インターンシップに参加したほか、オーストラリアと中国を旅行した。フィリピンで短期のボランティアも経験した。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
サポート体制は充実している。語学面では、English Language Enrichmentという大学の英語学習センターがあり、1学期目はワークショップに数回参加した。学習面では、困ったことがあればtutorに相談した。生活面は寮のレセプションのスタッフがサポートしてくれた。ルームメイトをはじめ寮の友人たちのことは、生活面・精神面の両方で頼りにしていた。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
総合図書館は平日朝8時から10時まで、休日は朝10時から夜8時まで開館している。図書館のほかに、各キャンパスにあるinformation commonsの建物でも共用パソコンが使える。Wi-fiは寮を含めキャンパス内で使えるが、2学期目にはなぜか通信速度が遅いと感じるが多かった。ジムは大学の寮に住む学生であれば無料で利用できる。キャンパス内のフードコートの食べ物は高い。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
国家公務員を将来の選択肢の一つに考えている。海外で生活することで、日本の良いところや改善すべき点について考えることが増えた。また、日本について具体的に説明しようとしたときに、自分がいかに知らないことが多いかということに気づかされた。日本のなかで何が問題なのか、どう改善できるのか、どの程度外国の事例を参考にできる可能性があるのか、考える必要があると感じた。また、ジェンダーについて勉強したことで、女性を含め、見逃されがちな人々のニーズに耳を傾け、貢献する仕事がしたいと思うようになった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)	
留学中は特に就活はしなかった。ただ、公務員試験対策スクールに申し込んだ。	
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください	
1. 研究職	
2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)	
3. 公的機関(機関名:)	
4. 非営利団体(団体名又は分野:)	
5. 民間企業(企業名又は業界:)	
6. 起業(分野:)	
7. その他()	
留学を振り返って	
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感	
学習面でいえば、東大ではあまりカバーされていない内容について講義を受けることができたのは、意義のあることだった。授業やレポートで触れた内容に関連して、今のところ卒論は女性や子どもに対する福祉政策について書こうと考えている。また、日本にいた時とは違い、勉強に集中する環境に恵まれた。生活面でいえば、はじめて実家から離れ、生活ペースを乱すことなく家事や勉強をこなすことができたのも、成長につながったと思う。また、多様化した社会で一人の人間として生きるとはどういうことか、友人との付き合いや普段の生活、授業を通して考え、経験することができた。	
②留学後の予定	
就職活動、公務員試験の勉強、卒論の準備をする。	
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス	
中・長期の留学になると、毎日が刺激や楽しいことであふれているわけでは必ずしもないと思う。勉強面でも人との付き合いでも、うまくいかなかったり落ち込んだりすることもあるかもしれない。もちろん、留学当初の目標を貫き通すことも大事だが、同時に、自分の心構えやアプローチを臨機応変に変えながら乗り切ることも必要だと思う。現地の友人に加え、他の大学に留学している友人、家族と話したり連絡を取ったりすることも、心の支えになる。	
その他	
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物	
Go Globalの過去の留学体験記。オークランド大学については、My Aucklanduniというサイトで情報をすべて把握・管理できる。また、ビザの準備に関しては、移民局のサイトの他に、サザンクロス・エージェンシーという留学エージェントのウェブサイトに分かりやすくまとめられていたので、参考にした(http://nz-ryugaku.com/student/visa.html)。	
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。	